防衛大学校本科第２５期学生及び理工学研究科第１８期学生卒業式における学校長式辞（昭和５６年３月２２日）

第4代学校長　土田　國保

防衛大学校本科第２５期４２１名の学生及び理工学研究科第18期６４名の学生は、本日をもって所定の教育訓練並びに研究の全課程を終了し、４年あるいは２年の小原台生活に別れを告げることとなりました。ここに、卒業式を挙行するに当たり、卒業生諸君全員に対し、まず心からお祝いを申し上げます。

本日、この栄えある式典に、国務御多端の折柄、御臨席を賜りました鈴木内閣総理大臣[注(1)]、徳永参議院議長[注(2)]、大村防衛庁長官[注(3)]はじめ、国会議員ほか内外多数の来賓各位に対し、心から厚くお礼を申し上げます。

また、卒業に至るまでの間、歴代の防衛関係機関の幹部各位、官民の諸機関、更には有志の皆様方、並びに在日米軍、各国大使館付武官の方々からいただきました御指導、御協力に対し、併せて厚くお礼申し上げる次第であります。また本校において、学術教育及び訓練の任に当たられました教官をはじめ、日夜をわかたず訓練補導に全力を傾注され、あるいはまた、縁の下の力持ちとなって各般の校務に精励せられた各位に対しましても、この際学校長として深甚なる感謝と敬意を表するものであります。更にはまた、遠路をも省みず御参列賜りました御父兄方に対しましても、その御援助に深く感謝するところでありまして、ここに御子弟の成業を心からお祝い申し上げる次第であります。

本科卒業生諸君、諸君は陸・海・空自衛隊それぞれの幹部候補生として、希望に満ちた新しい出発点に立つこととなりました。巣立ち行く諸君に、お別れの言葉として、二、三申し上げたいと存じます。

注(1)　鈴木善幸

注(2)　徳永正利

注(3)　大村襄治

まず、幹部候補生として何よりも大切なことは、人間修行であり、人格そして品性の陶冶であるということであります。諸君がこの４年間、座右の銘としてその実践に努めてこられた学生綱領の「廉恥・真勇・礼節」こそは、そのまま引き続いて今後の諸君の人生行を律すべき指針でもあります。部下統率の真諦（しんたい）は断じてテクニックではありません。諸君自身の人格を、自らの修養努力によって、地道にそして堅実に、いかに錬り上げてゆくかにかかっているのであります。廉恥の心あってはじめて真勇あり、而して礼節を全うし得るものなることを改めて心に刻み、起伏多き人生の試練に耐え、尊い国家防衛の責務を全うしていただきたい。およそ、愚直と評されてもよい素朴にして誠実な人柄と、機略縦横の活作用とは、その基盤において断じて矛盾するものではないと信ずるのであります。

第二に、諸君は、ゆくゆくは来るべき２１世紀初頭における我が国防衛の中堅士官たるべき宿命をもち、その予想される複雑多様なニーズに応えてゆくべき立場にあるということであります。今後の自衛隊幹部の資質として、期待される基本的な要請とは、然らば何でありましょうか。

その一は、複雑な事態の推移を見極める先見洞察力と、それを裏づける幅広く奥行の深い全人的教養であります。

その二は、国際社会において自らを律しつつ、地に足のついた太刀打ちの出来る国際人としての力量であります。

その三は、ますます高度化する科学技術の開発及びその適用能力であります。

諸君は、過去４年間において、以上のごとく諸々の要請に応えるべく、基礎的教養の蓄積、語学の履修、各専門部門の研鑽を通じて、己れがポテンシャルを培ったのでありますが、研学の道は遠く深く、省みてまだまだ不十分であることは諸君自らが承知のことと思います。

諸君の将来に向っての伸展性ある資質が、今後における旺盛な研究心、不断の研鑽努力によって、更に磨きを重ね、使命達成の実力を備えられんことを切に祈るものであります。

第三に、諸君は、引き続き大いに心身の鍛錬に努めていただきたいということであります。

「やる気の源泉」は不断の鍛錬にあります。防大４年間、自らの肉体と精神の限界に挑んだ貴重な体験と実績を基礎に、尉官のシンボルとも称すべき「意気と情熱」を縦横に発揚し、最後まで任務を全うし得る不屈の気力・体力を、今後とも維持増進していただきたいと存ずるのであ

ります。

次に理工学研究科卒業生諸君に対し、一言申し述べます。貴重な２年の歳月、諸君は防大本科或いは一般大学で学ばれた学業の上に更に磨きをかけられ、高度の専門的知識技能を身につけられたのであります。昨年１１月、防衛庁における諸君の研究発表会は、本研究科にとって真に画期的な行事でありましたが、その成功は、まさに諸君の日常の研鑽の賜であり、心から敬意を表するものであります。前述いたしましたごとく、我が国の防衛技術の領域は、将来大いに発展向上する必要のあるところであります。諸君は、それぞれの新任務に挺身せられるとともに、今後とも、更に研鑽に努められ、自衛隊の科学技術分野の発展向上に尽力されんことを切望するものであります。

最後に、本科卒業生諸君の中に、健康上、家庭的事情等から他の人生のコースを歩もうとする人が若干あります。諸君が自衛隊幹部への素志を遂げられないのは真に残念でありますけれども、永久に忘れることのない小原台４年間の青春の思い出を互いに分かちあいつつ、我が国の安全と発展、国民生活の幸福のため、ともに手を携えて進まれんことを心から望むものであります。

終りに、重ねて卒業生諸君の御健康と今後の御健闘を心から祈念いたし、以上をもちまして式辞といたします。